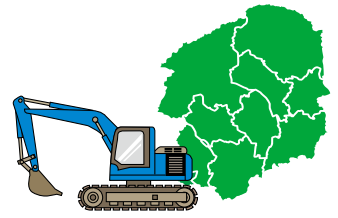


誇りを持って!!



地域の安全安心へ役割重要



一般社団法人 栃木県建設業協会
会長 わたなべ いさお 渡邊 勇雄

建設産業は、安全・安心で快適なくらしに直結する道路・河川などの整備・維持管理や、教育文化・産業施設など地域の発展につながる社会資本の整備を通じ、住民生活の向上を担う地域に欠かせない産業です。

また、災害時には技術力や人材・資機材等を活用し、行政に協力して応急・復旧活動や救助に協力する『地域の守り手』として大変重要な役割を担っています。地域社会を支えるその大きな使命は、地震や異常気象における豪雨災害への迅速な対応など、改めてその重要性が再認識されています。

しかしながら、建設業の次世代の担い手と期待される土木・建築学科卒業生等が減少しており、若手への技術・技能承継は大きな課題となっています。

本会といたしましては、『地域の守り手』をテーマとした座談会を通じ、災害時における現場の初動対応から復旧作業に至るまでの活動の様子から、活力と魅力あふれた建設産業の姿が次世代を担う若者達に共感を促し、故郷（ふるさと）の建設業への入職促進に繋がるよう期待しております。

明日（11月18日）は、『土木の日』です。あらためて、土木の仕事は快適で豊かな街づくりはもちろん、災害対応など幅広く生活に密着しており、私たち建設業従事者は誇りと自負を持って取り組んでおりますことをご理解ください。

結びに、この度の企画特集に際して、公益財団法人建設業福祉共済団の全面的なご支援を頂き深く感謝申し上げます。

若者に選ばれる魅力ある建設業



栃木県県土整備部
部長 えのばら たかのぶ 江連 隆信氏

平成27年9月の関東・東北豪雨では、建設業の皆様には、極めて厳しい状況の中で迅速な対応をして頂き、おかげさまで復旧工事が無事に完了できましたこと、深く感謝と御礼を申し上げます。

さて、建設業は、社会資本の整備や保全を担う産業として、地域の経済と雇用を支えとともに、災害時には初動対応から復旧作業に至るまで、現場の最前線で社会の安全・安心を確保する役割を担っています。

一方で、少子高齢化社会が進展する中、「きつい・汚い・危険」の3Kをイメージする建設業は入職者が減少し、将来の担い手不足が懸念されています。

このため、県では、県土整備の総合的な指針である「県土づくりプラン2016」において、「次世代の県土を支える人づくり・協働」を重点取組に掲げ、建設業の担い手の確保・育成に繋がる取組みを進めています。

まずは、建設現場における「生産性の向上」と「働き方改革」を推進するため、ICT技術を活用した土工事や週休2日制モデル工事を開始したところです。

こうした取組みにより、「高い給与と長い休暇で希望が持てる」新3Kを実現し、若者に選ばれる魅力ある建設業を目指します。

県ではこれからも、「地域の守り手」として県民に期待され、将来にわたり必要とされる建設業の支援に努めて参ります。

将来に期待される建設業



神谷建設 磯田悠希氏

■荒川 鹿沼支部の機械建設で土木施工管理業務全般を担当している荒川勇太郎です。現場では大変なことも多いですが、現場が少しずつ出来上がって、完成したときの達成感にはやりがいを感じます。利用者や地域の方々とはより近

い位置で仕事を携わることができます。作ったものがずっと残る仕事なので、より良いものをつくっていきたいです。

■磯田 同じく鹿沼支部の神谷建設で土木現場の施工管理業務全般を担当している磯田悠希です。平成29年9月までは鹿沼市内の道路改良工事の現場代理人の職務についていました。普段なにげなく通っている道路や橋などは、あって当たり前なものと思いがちですが、その裏ではたくさん